2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月10日

上 場 会 社 名　株式会社一蔵　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　6186　　URL https://www.ichikura.jp/
代　　表　　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）河端　義彦
問合せ先責任者　（役職名）取締役財務経理本部長（氏名）岡田　孝二　（TEL）03-5297-5151（代表）

半期報告書提出予定日　2026年11月13日　配当支払開始予定日　2026年12月７日
決算補足説明資料作成の有無　：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	8,407	0.0	△682	―	△685	―	△534	―
2026年３月期中間期	8,405	△4.7	△919	―	△927	―	△595	―

（注）包括利益　2027年３月期中間期　△542百万円（　―%）　2026年３月期中間期　△704百万円（　―%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	△96.66	―
2026年３月期中間期	△107.96	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	17,502	2,095	12.0	379.17
2026年３月期	17,593	2,712	15.4	490.65

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　2,095百万円　2026年３月期　2,712百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	14.00	14.00
2027年３月期	―	7.00			
2027年３月期(予想)			―	8.00	15.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,206	3.9	331	―	302	―	177	―	32.10

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：有

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	5,539,676株	2026年３月期	5,531,006株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	12,063株	2026年３月期	2,706株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	5,529,005株	2026年３月期中間期	5,516,944株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ３「１．当四半期決算に関する定性的情報　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

2026年11月13日に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（会計上の見積りの変更） …… 9
（セグメント情報等） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間（2026年４月１日から2026年９月30日まで）におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善を背景に、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇に伴う消費者の節約志向は依然として根強く、中東情勢の長期化や為替相場の変動など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、「日本文化をもっと身近にする」、「私たちのおもてなしを世界に広げる」、「世の中を楽しく変えていく」という経営理念のもと、事業環境の変化に対応するため、経営資源の選択と集中やコスト構造の見直しを進めるとともに、事業運営体制の強化を図り、収益力の向上と経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

（和装事業）

和装事業におきましては、経営体制の強化に向け、次世代メンバーによる活発な議論と自律的な事業運営を促す体制の整備に取り組んでまいりました。集客施策では、ダイレクトメール中心の集客からSNS等のデジタルツールを活用した集客施策への移行を進め、広告宣伝費の適正化に取り組んでまいりました。店舗運営では、店舗網の見直しを通じて経営資源の集約を進めるとともに、教育体制の強化を図り、サービス品質の向上に努めてまいりました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は6,747,656千円（前中間連結会計期間比1.1％増）、セグメント利益は186,159千円（前中間連結会計期間はセグメント損失147,128千円）となりました。

なお、当中間連結会計期間末の受注残高は、6,769,978千円（前中間連結会計期間末比7.0％増）となっております。

（ウエディング事業）

ウエディング事業におきましては、国内では、既存の広告媒体の最適化を図りつつ、SNS広告や自社ウェブサイト等のデジタル媒体への配分比率を高めることで、集客効率の向上を図ってまいりました。また、従来からの季節イベントや飲食イベントの開催を継続するとともに、法人向け利用を含む婚礼以外の多様な施設活用を推進するなど、収益機会の拡大に取り組んでまいりました。さらに、2024年12月に開設したフォトスタジオ「Studio Merlin（スタジオマーリン）」に加え、2026年秋に名古屋市で予定する「studio HYAKKAROU（スタジオ百花籠）」の開設準備を進めるなど、多様化するウエディング需要への対応を進めてまいりました。しかしながら、施行組数の減少に伴い売上高が前中間連結会計期間を下回ったことに加え、受注確保に向けた広告投入の強化に伴い、広告宣伝費が増加した影響もあり、セグメント損失は前中間連結会計期間に比べ、拡大する結果となりました。

一方、中国では、事業環境の変化を踏まえ、上海の２つの結婚式場の１つ「虹橋店」の資産譲渡を実施し、経営資源の効率的な活用と収益性の改善に取り組んでまいりました。しかしながら、中国経済の減速等を背景に顧客の節約志向は根強く、業績の本格的な回復にはなお時間を要する状況となっております。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は1,659,867千円（前中間連結会計期間比4.2％減）、セグメント損失は486,283千円（前中間連結会計期間はセグメント損失403,785千円）となりました。

なお、当中間連結会計期間末の受注残組数は、1,020組（前中間連結会計期間末比2.4％減）となっております。

（全社）

上記の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高8,407,523千円（前中間連結会計期間比0.0％増）、営業損失682,462千円、経常損失685,605千円、親会社株主に帰属する中間純損失は534,429千円となりました。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間の総資産は17,502,506千円（前連結会計年度比0.5％減）となりました。

流動資産の残高は10,262,100千円（前連結会計年度比2.2％減）となりました。これは主に売掛金が71,262千円、有価証券が100,000千円、商品が50,450千円、仕掛品が140,953千円増加した一方で、現金及び預金が651,777千円減少したことによります。

固定資産の残高は7,240,406千円（前連結会計年度比2.0％増）となりました。これは主に建設仮勘定が32,028千円、敷金及び保証金が29,162千円、繰延税金資産が212,942千円増加した一方で、建物及び構築物（純額）が57,831千円、投資有価証券が100,000千円減少したことによります。

負債につきましては15,406,593千円（前連結会計年度比3.5％増）となりました。

流動負債の残高は13,491,123千円（前連結会計年度比6.6％増）となりました。これは主に買掛金が55,215千円、１年内返済予定の長期借入金が79,939千円、その他（流動負債）が166,946千円減少した一方で、未払金が90,312千円、前受金が1,072,545千円増加したことによります。

固定負債の残高は1,915,469千円（前連結会計年度比14.0％減）となりました。これは主に長期借入金が256,546千円減少したことによります。

純資産につきましては2,095,913千円（前連結会計年度比22.7％減）となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純損失534,429千円を計上したこと、為替換算調整勘定が7,919千円減少したこと、配当金77,396千円を支払ったことによります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は547,262千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果減少した資金は65,261千円となりました。これは主に税金等調整前中間純損失725,533千円、売上債権の増加額71,262千円、棚卸資産の増加額230,693千円、仕入債務の減少額61,878千円、未払消費税等の減少額175,502千円、利息の支払額31,654千円、法人税等の支払額44,086千円があった一方で、減価償却費221,927千円、前受金の増加額1,062,832千円があったことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は347,812千円となりました。これは主に定期預金の預入による支出385,179千円、固定資産の取得による支出197,969千円があった一方で、定期預金の払戻による収入280,122千円があったことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は421,821千円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出336,485千円、配当金の支払額77,444千円があったことによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月13日の「2026年３月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました、2027年３月期の通期連結業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,288,259	4,636,481
売掛金	901,343	972,605
有価証券	－	100,000
商品	2,003,418	2,053,868
レンタル商品	1,409,391	1,433,709
仕掛品	394,449	535,403
原材料及び貯蔵品	78,663	93,867
その他	417,694	436,164
流動資産合計	10,493,220	10,262,100
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,069,561	4,011,730
土地	864,081	864,081
建設仮勘定	2,030	34,058
その他（純額）	195,189	215,445
有形固定資産合計	5,130,863	5,125,316
無形固定資産		
ソフトウエア	108,160	124,361
その他	73,685	55,283
無形固定資産合計	181,846	179,644
投資その他の資産		
投資有価証券	100,000	－
出資金	20	20
長期未収入金	146,960	146,960
敷金及び保証金	1,246,313	1,275,476
繰延税金資産	432,830	645,773
その他	8,489	14,175
貸倒引当金	△146,960	△146,960
投資その他の資産合計	1,787,654	1,935,445
固定資産合計	7,100,364	7,240,406
資産合計	17,593,584	17,502,506

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	771,507	716,291
短期借入金	3,180,000	3,180,000
１年内返済予定の長期借入金	593,011	513,072
未払金	439,652	529,964
未払費用	321,131	307,822
未払法人税等	44,120	21,910
前受金	7,013,739	8,086,284
預り金	64,216	76,191
賞与引当金	1,200	1,140
その他	225,392	58,446
流動負債合計	12,653,970	13,491,123
固定負債		
長期借入金	747,945	491,399
資産除去債務	469,585	455,622
繰延税金負債	864	792
退職給付に係る負債	677,291	684,274
その他	331,467	283,381
固定負債合計	2,227,153	1,915,469
負債合計	14,881,124	15,406,593
純資産の部		
株主資本		
資本金	52,875	54,475
資本剰余金	1,981,408	1,983,008
利益剰余金	634,526	22,700
自己株式	△27	△27
株主資本合計	2,668,782	2,060,155
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	43,677	35,757
その他の包括利益累計額合計	43,677	35,757
純資産合計	2,712,460	2,095,913
負債純資産合計	17,593,584	17,502,506

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	8,405,662	8,407,523
売上原価	3,181,872	3,119,452
売上総利益	5,223,790	5,288,071
販売費及び一般管理費	6,142,944	5,970,534
営業損失（△）	△919,154	△682,462
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,610	4,537
受取手数料	1,024	875
為替差益	10,624	15,490
その他	6,528	10,398
営業外収益合計	20,787	31,302
営業外費用		
支払利息	27,390	29,063
その他	1,834	5,382
営業外費用合計	29,225	34,445
経常損失（△）	△927,592	△685,605
特別利益		
固定資産売却益	176,809	－
特別利益合計	176,809	－
特別損失		
固定資産除却損	509	3,176
減損損失	37,904	36,751
特別損失合計	38,413	39,928
税金等調整前中間純損失（△）	△789,197	△725,533
法人税、住民税及び事業税	22,609	21,910
法人税等調整額	△216,224	△213,013
法人税等合計	△193,615	△191,103
中間純損失（△）	△595,581	△534,429
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△595,581	△534,429

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純損失（△）	△595,581	△534,429
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△109,037	△7,919
その他の包括利益合計	△109,037	△7,919
中間包括利益	△704,619	△542,349
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△704,619	△542,349
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失（△）	△789,197	△725,533
減価償却費	281,043	221,927
減損損失	37,904	36,751
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	23,437	6,983
賞与引当金の増減額（△は減少）	△132	△60
受取利息及び受取配当金	△2,610	△4,537
支払利息	27,390	29,063
為替差損益（△は益）	△10,624	△15,490
固定資産除却損	509	3,176
有形固定資産売却損益（△は益）	△176,809	－
売上債権の増減額（△は増加）	180,591	△71,262
棚卸資産の増減額（△は増加）	△132,459	△230,693
仕入債務の増減額（△は減少）	△97,859	△61,878
未払費用の増減額（△は減少）	△18,996	△12,229
未払消費税等の増減額（△は減少）	△50,430	△175,502
前受金の増減額（△は減少）	1,444,013	1,062,832
その他	△27,484	△57,602
小計	688,286	5,943
利息及び配当金の受取額	2,607	4,535
利息の支払額	△26,386	△31,654
法人税等の支払額	△43,954	△44,086
営業活動によるキャッシュ・フロー	620,552	△65,261
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△714,640	△385,179
定期預金の払戻による収入	619,965	280,122
固定資産の取得による支出	△264,669	△197,969
有形固定資産の売却による収入	1,035,595	－
貸付金の回収による収入	166	－
その他	△747	△44,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	675,668	△347,812
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△660,000	－
長期借入れによる収入	100,000	－
長期借入金の返済による支出	△343,867	△336,485
リース債務の返済による支出	△9,805	△7,892
配当金の支払額	△77,171	△77,444
財務活動によるキャッシュ・フロー	△990,843	△421,821
現金及び現金同等物に係る換算差額	△52,227	78,061
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	253,150	△756,834
現金及び現金同等物の期首残高	978,297	1,304,097
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,231,447	547,262

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計上の見積りの変更）

（棚卸資産に係る収益性低下の見積りに関する変更）

当社グループは、販売目的で保有する和装商品のうち一定の保有期間を超えるものについて、滞留期間に応じて定めた簿価切下率に基づき、規則的に帳簿価額を切り下げた価額をもって連結貸借対照表価額としております。

近年、生地の品質向上により経年劣化が緩やかになっていることに加え、仕入れからの経過期間に応じた販売実績等を踏まえ、従来の簿価切下げ開始期間を経過した商品についても一定の収益性が認められることから、棚卸資産に係る収益性の低下の実態をより適切に反映するため、当連結会計年度の期首より、帳簿価額の切下げを開始する期間を従来の３年から５年に変更しております。

この結果、従来の方法と比べて、当中間連結会計期間の売上原価が75,866千円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前中間純損失はそれぞれ同額減少しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	和装事業	ウエディング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,673,552	1,732,110	8,405,662	－	8,405,662
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	6,673,552	1,732,110	8,405,662	－	8,405,662
セグメント損失(△)	△147,128	△403,785	△550,914	△368,240	△919,154

（注）１．セグメント損失(△)の調整額△368,240千円は本社管理費であります。
２．セグメント損失(△)は中間連結損益計算書の営業損失(△)と調整しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「和装事業」セグメントにおいて、店舗の撤退を決定したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、37,904千円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	和装事業	ウエディング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,747,656	1,659,867	8,407,523	－	8,407,523
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	6,747,656	1,659,867	8,407,523	－	8,407,523
セグメント利益又は損失(△)	186,159	△486,283	△300,123	△382,339	△682,462

（注）１．セグメント利益又は損失(△)の調整額△382,339千円は本社管理費であります。
２．セグメント利益又は損失(△)は中間連結損益計算書の営業損失(△)と調整しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「和装事業」セグメントにおいて、店舗の撤退を決定したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、36,751千円であります。